

新受験生と新受験ママの出現とその背景 (1)

3. 新受験生と新受験ママ

この章の要約

1. これまでの章では、中学受験の動機や、それを志す子供や親が何を考えどんな行動をとるのかを中心に見てきた。
2. この章では、そうした中学受験を目指す子供や親に、受験しない層と比べて一定のタイプが見られるかどうかを調査した。
3. その結果、子供の学校での様子(タイプ)、自己像、進学観や将来になりたい職業などにおいて、受験する子供とそうでない子供に違いが見られた。
4. 同様に母親に対しても、自己像、教育観などについて調査したが、これにもいくつか違いが見られることも分かった。
5. しかし、それらの違いは、これまで考えられてきた一般的な受験生像、受験ママ像にはみられないものであった。そこでそれらに「新受験生」「新受験ママ」とわれわれは名づけた。



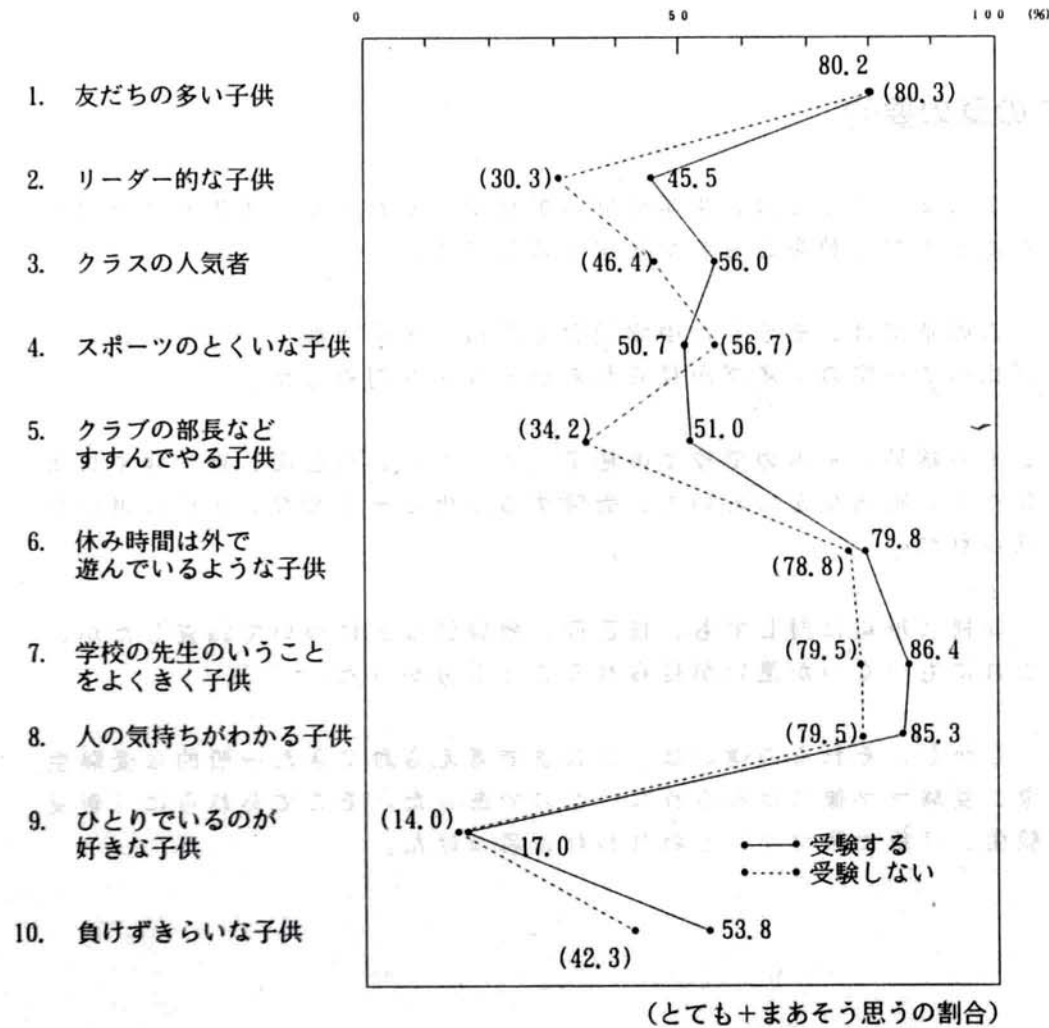
(全体的な傾向を示すグラフ)

この調査結果から、新受験生と新受験ママの出現とその背景について、より詳しく見ていく必要がある。特に、新受験生と新受験ママの出現とその背景について、より詳しく見ていく必要がある。

[1] 学校での子供のタイプは (母親調査)

「クラスの人気者」「クラブの部長」などリーダー的な子供は受験する子供の方が多い。全体的に受験する子供の積極面が表れている。

<図3-1> 学校での子供のタイプは



※ 項目1.4.6.では、遊びやスポーツについてきいているが、受験する子供としない子供との差はほとんどみられなかった。差がみられるのは、リーダー的な性格や情緒面で、受験する子供のほうが相対的に、受験しない子供よりも高いポイントが出ている。

[2] 自分をどんな子供だと思うか (子供調査)

「友だちとのおしゃべりが好きな子供(78.2%)」「友だちの多い子供(75.7%)」「いやなこともがまんする子供(46.6%)」などの項目についてそう思うと答えている割合が高い。

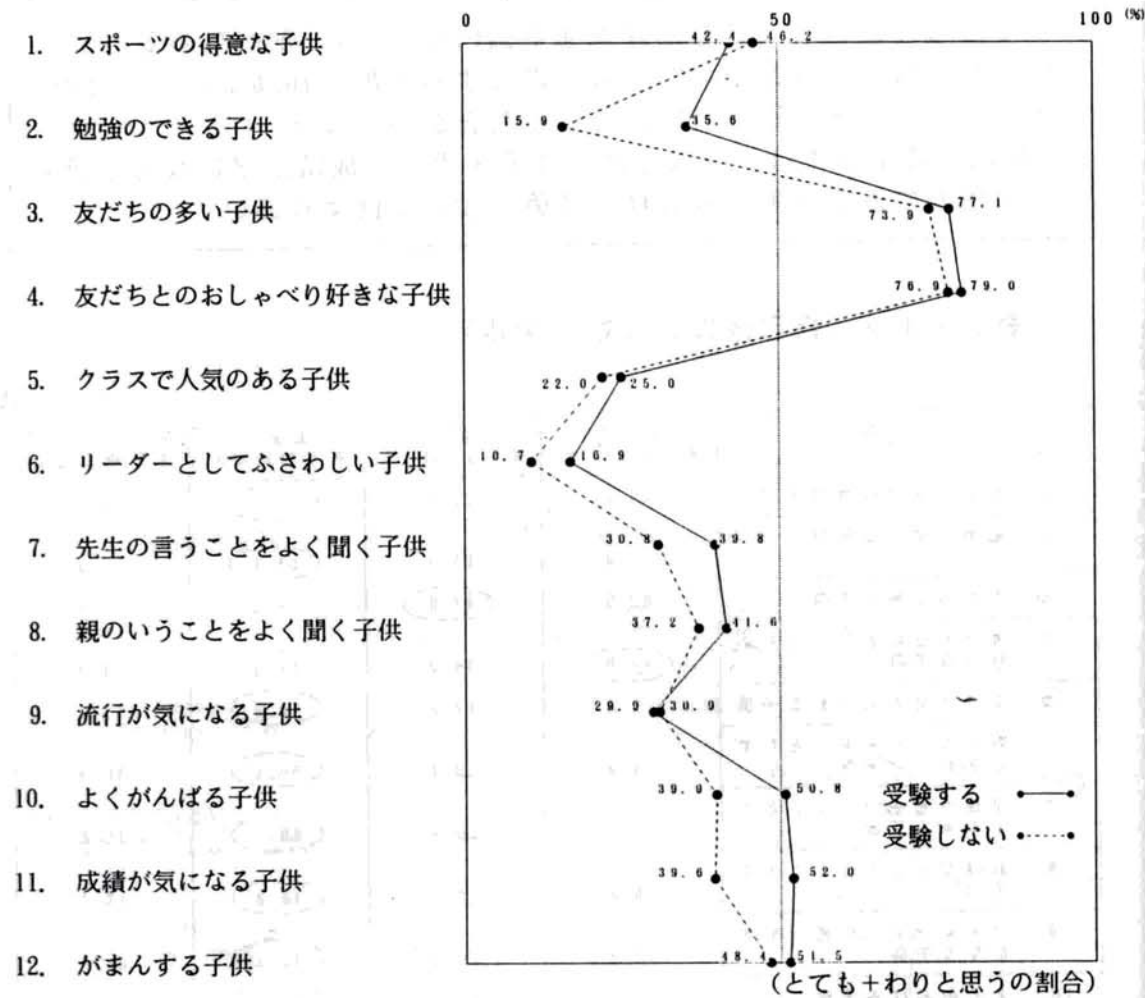
受験する子供では、「よくがんばる子供」「成績が気になる子供」「勉強のできる子供」の項目が受験しない子供より高い。

<表3-1> 自己像について (全体)

項目	尺度			
	とても そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
1. スポーツの得意な子供	19.1	27.6	38.4	14.9
2. 勉強のできる子供	5.4	18.3	54.1	22.2
3. 友だちの多い子供	32.9	42.6	19.3	5.2
4. 友だちとのおしゃべりが好きな子供	42.0	36.2	17.5	4.3
5. クラスで人気のある子供	5.8	17.2	53.9	23.1
6. みんなのリーダーとしてふさわしい子供	4.4	8.7	50.1	36.8
7. 学校の先生の言うことをよくきく子供	7.4	26.9	50.1	15.6
8. 親の言うことをよくきく子供	8.8	29.2	46.3	15.7
9. ファッションや流行が気になる子供	10.4	20.2	36.7	32.7
10. よくがんばる子供	12.3	30.8	44.1	12.8
11. 成績のことがいつも気になる子供	18.1	27.5	36.3	18.1
12. いやなことがあってもがまんする子供	14.2	34.4	38.9	12.5

(○印は最大値)

<図3-2> 自己像と受験の有無(子供調査)



※ 受験する子供は「成績のことがいつも気になる(52.0%)」「よくがんばる(50.8%)」が受験しない子供に比べて高い。

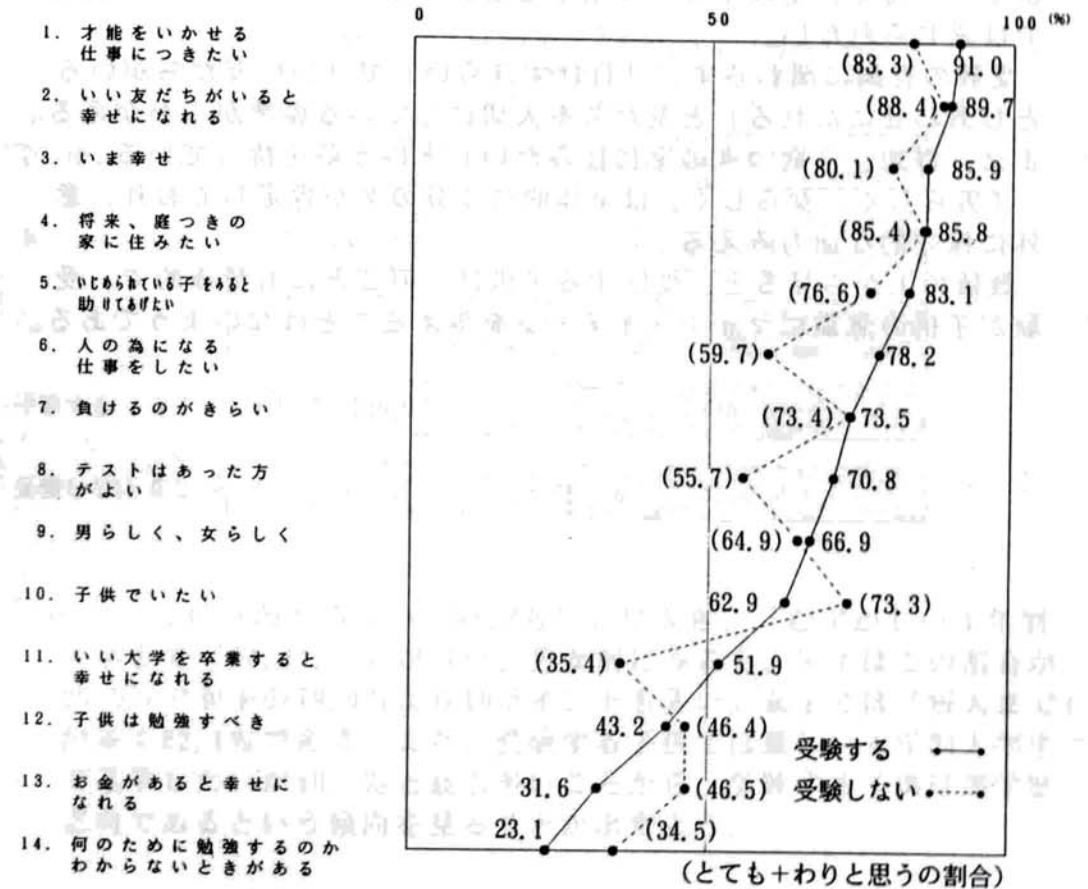
中学受験にとって必要とされる要素についての割合が高いともいえるだろう。

その他にも「先生のいうことをよく聞く」「親のいうことをよく聞く」なども高く、いわゆる「よい子」のイメージがする。

[3] 子供の価値観と受験(子供調査)

受験生の85.9%は「いま、幸せ」と感じている。
また全体的に、受験する子供の方が受験しない子供より積極的な姿勢がみられるようだ。

<図3-3> 子供の価値観と受験の有無



※ 受験の有無に関わらず、「子供は勉強すべき」と思っているのは約4割だが(とても+わりと思うの割合。以下同)、受験をしない子供の34.5%、する子供でも23.1%が「何のために勉強するのかわからない」と答えている。

受験する子供は「いい大学を卒業するとしあわせになる(51.9%)」の数値が高く、受験しない子供は「お金があると幸せになれる(46.5%)」の数値が高い。

「才能をいかせる仕事につきたい」で受験する子供は91.0%が「そう思う」と答えている。「テストはあった方がよい」を見ると、テ

ストは全体的に肯定されているようであるが、やはり受験をする子供の数値が高い(70.8%)。

「人のためになる仕事をしたい」「いじめられている子を見ると助けてあげたい」では受験に関係なく、半数以上がそうっており、安心させられるが、受験する子供の方がより高い割合で思っていることにも注目したい。受験しない子供の73.3%は「子供でいたい」と思っており、受験する子供に比べ(62.9%)数値が高い。しかし、「いましあわせ」では、受験する子供で85.9%、しない子供で80.1%で、受験イコール不幸せという暗いイメージはこの調査では感じられない。

受験の有無に関わらず、「負けずぎらい」で「いい友だちがいる」としあわせになれる」と友だちを大切にしている姿勢がうかがえる。また、将来、「庭つきの家に住みたい」という夢を持っている。

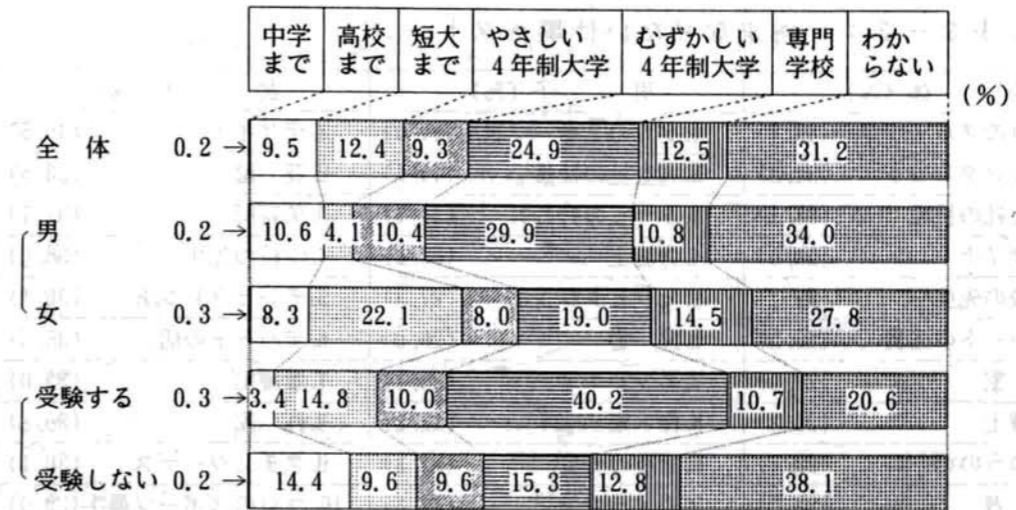
「男らしく、女らしく」は全体的に3分の2が肯定しており、意外に保守的な面もみえる。

数値の上から見ると、受験する子供は、何ごとにも積極的で、受験が子供の意識にマイナスイメージを与えることはないようである。

[4] 将来どの学校まで進みたいか (子供調査)

全体としては4年制大学へ36.9%が進学したいと考えている。受験する子供は「むずかしい4年制大学まで」の割合が40.2%で最も多い。

<図3-4> 将来どの学校まで進みたいか



※ 全体では「わからない(31.2%)」に次ぎ、「むずかしい4年制大学まで(24.9%)」が多い。男女別にみると、男子はこの割合が、29.9%で女子の19.0%より10ポイントも多い。女子では「短大まで」が多く22.1%である。また、受験する子供では難しい4年制大学まで進学したいが40.2%と最も多いことから、受験する子供は高学歴志向であるという傾向を見ることが出来る。

[5] 将来どんな仕事をしたいか (子供調査)

将来なりたい仕事のベスト3は全体では1.プロのスポーツ選手(46.7%) 2.テレビタレント(31.3%) 3.大会社の社長(31.1%)である。(とても+わりとしたいの割合)

また、中学受験をする子供は、弁護士、作家、医者、学校の先生など専門的な職業に対する志向が強い。

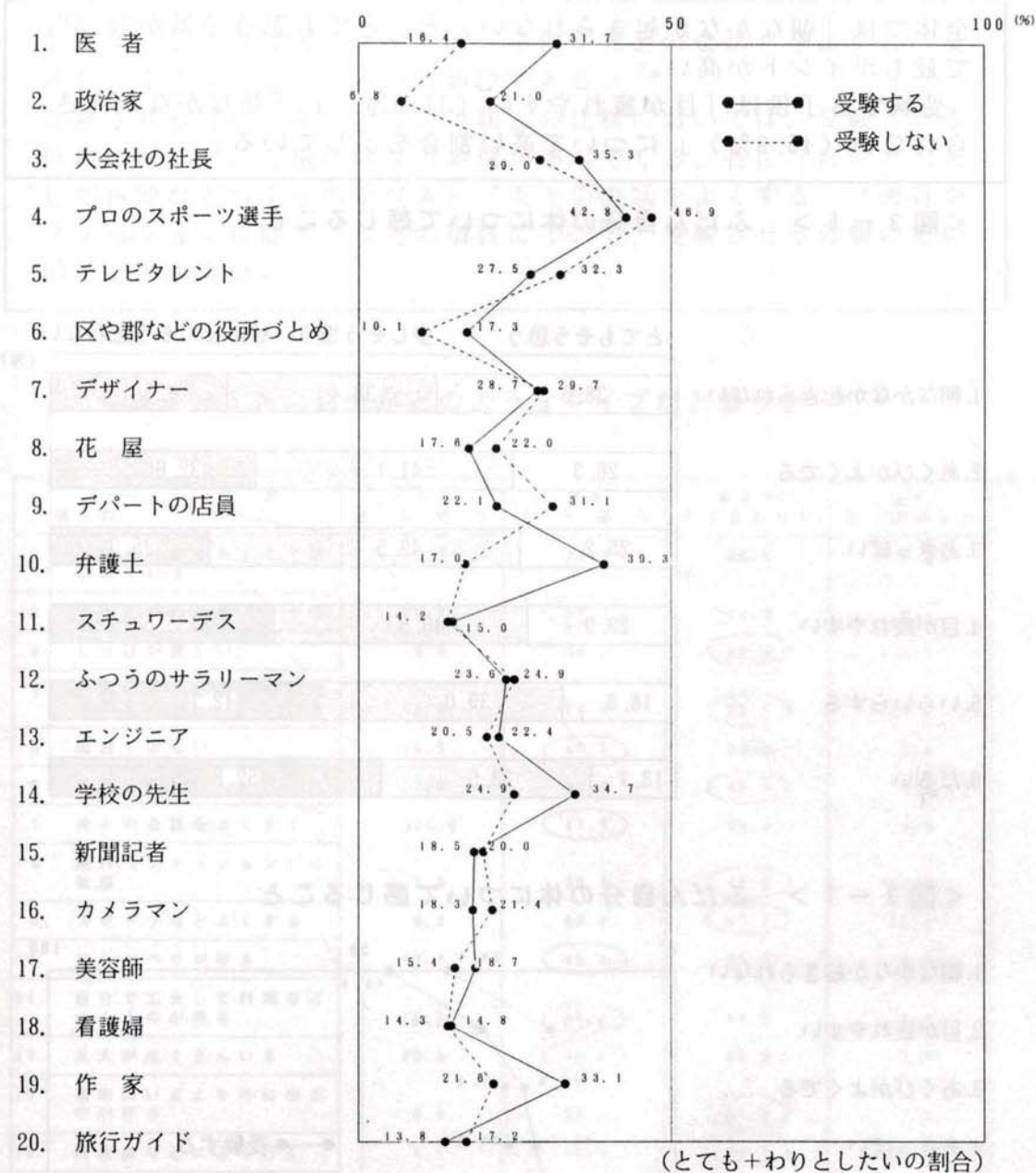
<表3-2> 将来なりたい仕事ベストテン

全 体 (%)	男 子 (%)	女 子 (%)
1.プロのスポーツ選手(46.7)	1.プロのスポーツ選手(61.0)	1.デザイナー (49.5)
2.テレビタレント (31.3)	2.大会社の社長 (44.6)	2.花 屋 (38.6)
3.大会社の社長 (31.1)	3.ふつうのサラリーマン (34.7)	3.美容師 (37.7)
4.デザイナー (29.6)	4.弁護士 (30.8)	4.学校の先生 (36.9)
5.学校の先生 (29.2)	5.テレビタレント (27.3)	5.テレビタレント (36.1)
6.デパートの店員 (26.5)	6.医 者 (26.0)	6.デパートの店員 (35.3)
6.作 家 (26.5)	7.エンジニア (25.7)	7.看護婦 (33.0)
8.弁護士 (25.3)	8.作 家 (23.2)	8.作 家 (30.3)
9.ふつうのサラリーマン (23.4)	9.学校の先生 (22.8)	9.スチュワーデス (30.1)
10.医 者 (23.3)	9.カメラマン (22.8)	10.プロのスポーツ選手(29.9)

(とても+わりとしたいの割合)

※ 男女差を見ると、男子は圧倒的に「プロのスポーツ選手」の割合が高く、以下「大会社の社長」「ふつうのサラリーマン」と続く。女子は、「デザイナー」「花屋」「美容師」など華やかな職業にあこがれる傾向が見られる。

<図3-5> 将来の希望と受験希望の有無(子供調査)



※ 「プロのスポーツ選手」は受験の有無に関わらずベスト1に輝いている。ベスト2以下を見ると受験する子供は弁護士(39.3%)学校の先生(34.7%)医者(31.7%)政治家(21.0%)など専門技術職のポイントが高いことが分かる。

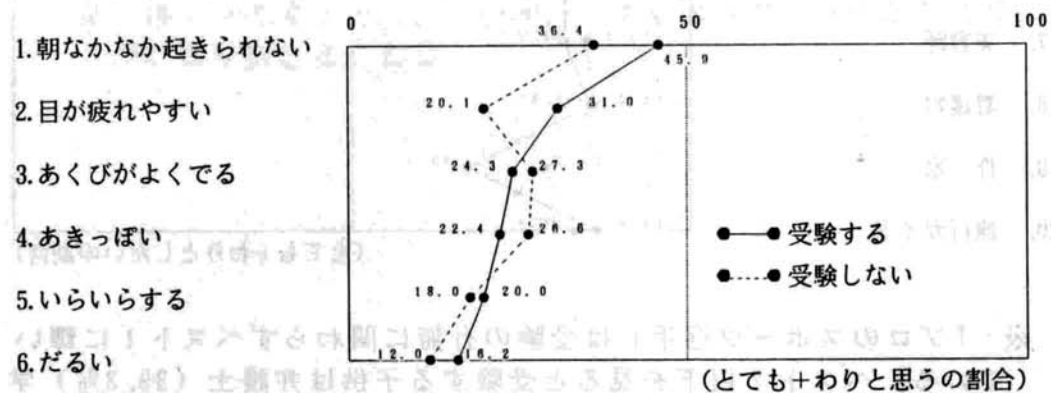
〔6〕子供の健康状態について（子供調査）

全体では「朝なかなか起きられない」と、とても思う子供が38.5%で最もポイントが高い。
 受験する子供は「目が疲れやすい（31.0%）」「朝なかなか起きられない（45.9%）」について高い割合を示している。

＜図3-6＞ ふだん自分の体について感じる事

	とてもそう思う	少しそう思う	ぜんぜんそう思わない	(%)
1.朝なかなか起きられない	38.5	33.4	28.1	
2.あくびがよくでる	26.3	41.1	32.6	
3.あきっぱい	25.2	49.5	25.3	
4.目が疲れやすい	23.9	40.5	35.6	
5.いらいらする	18.3	39.0	42.7	
6.だるい	13.7	33.5	52.8	

＜図3-7＞ ふだん自分の体について感じる事



※ 受験する子供は「あきっぱい」「あくびがよくでる」を除けば受験しない子供よりも高いポイントで、何らかの身体的な疲れを訴えている。「朝、なかなか起きられない」なども明らかに家庭での勉強時間の長さから来るものと思われる。

〔7〕母親の自己像は（母親調査）

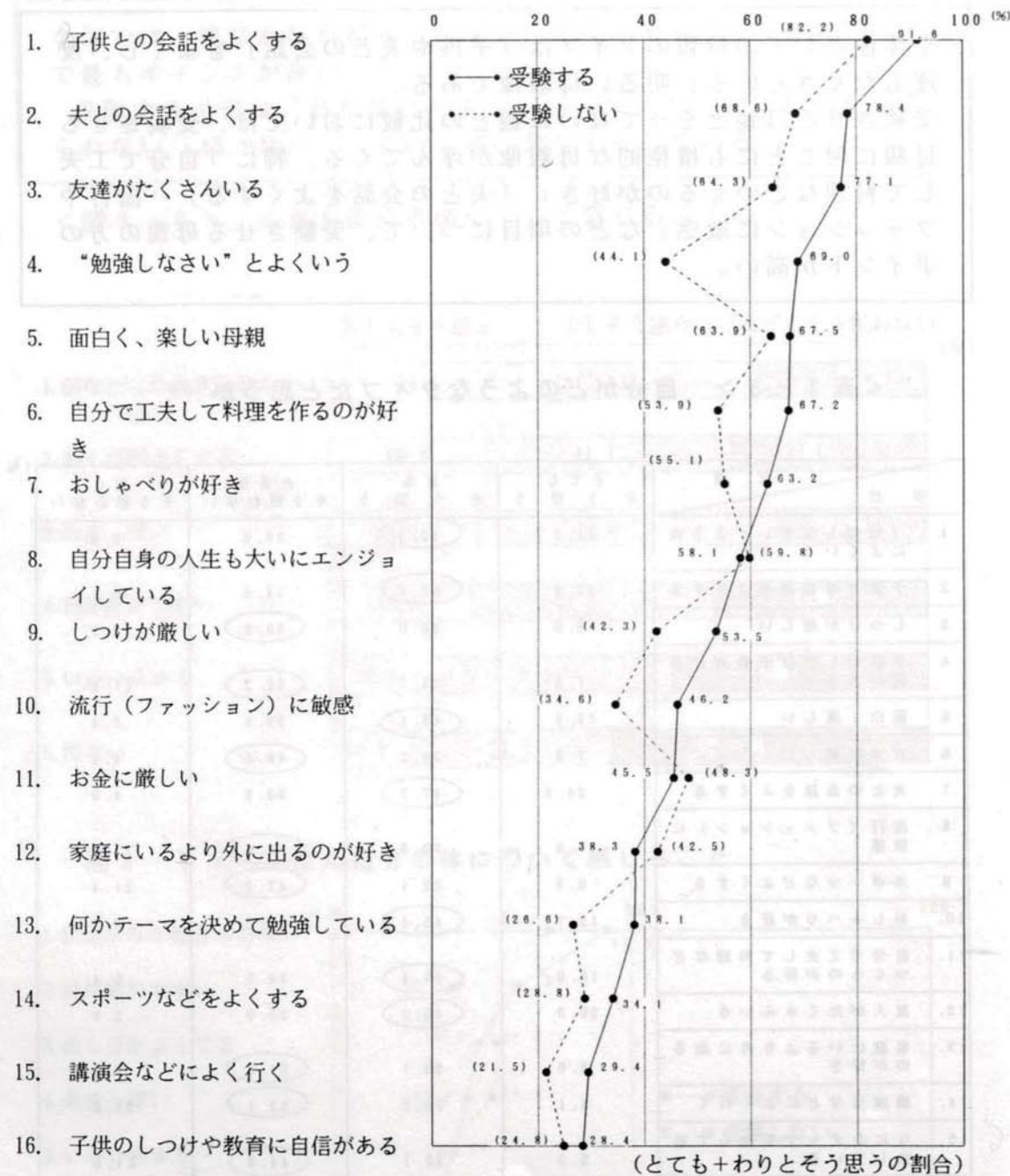
全体像としての母親のタイプは「子供や夫との会話」をよくし、「友達もたくさんいる」明るい母親像である。
 受験させる母親とそうでない母親との比較においては、受験させる母親に何ごとにも積極的な母親像が浮んでくる。特に「自分で工夫して料理などつくるのが好き」「夫との会話をよくする」「流行やファッションに敏感」などの項目について、受験させる母親の方のポイントが高い。

＜表3-3＞ 自分がどのようなタイプだと思うか

項目	尺 度				(%)
	とても そう 思う	まあ そう 思う	あまり そう 思わない	全く そう 思わない	
1. 「勉強しなさい」と子供によくいう	11.3	42.0	39.9	6.8	
2. 子供との会話をよくする	22.9	62.7	14.3	0.1	
3. しつげが厳しい	8.9	38.0	49.6	3.5	
4. 子供のしつげや教育に自信がある	1.8	23.7	62.7	11.8	
5. 面白く楽しい	14.9	49.1	33.6	2.4	
6. お金に厳しい	7.8	39.2	48.6	4.4	
7. 夫との会話をよくする	24.8	47.7	23.5	4.0	
8. 流行（ファッション）に敏感	7.9	30.9	49.6	11.8	
9. スポーツなどよくする	9.3	22.1	47.2	21.4	
10. おしゃべりが好き	12.7	45.4	37.0	4.9	
11. 自分で工夫して料理などつくるのが好き	16.0	44.1	34.5	5.4	
12. 友人がたくさんいる	20.3	49.2	28.0	2.5	
13. 家庭にいるより外に出るのが好き	8.0	33.1	51.5	7.4	
14. 講演会などによく行く	4.1	20.2	53.1	22.6	
15. なにかテーマを決めて勉強している	9.0	22.1	44.9	24.0	
16. 自分自身の人生も、大いにエンジョイしている	13.7	45.2	34.1	7.0	

(○印は最大値)

<図3-8> 自分がどのようなタイプだと思うか(母親調査)



※ 特に受験させる母親とそうでない母親とで違いが大きいものを見ると、「勉強しなさいとよくいう母親」「自分で工夫して料理を作るのが好き」「しつけが厳しい」「ファッションに敏感」「何かテーマを決めて勉強している」などである。

[8] 母親の教育観は(母親調査)

「今の子供たちの方が自分たちのころよりも受験戦争は厳しい」と60%の親が「とてもそう思う」と答えている。全体として、受験戦争には否定的であるが「受験戦争は今後ますます厳しくなるだろう」と思っているし、その中において、「少しでもよい高校や大学に入りたい」とする親ごころがうかがえる。受験させる親とそうでない親との比較では公立中学についての考え方、受験に対する考え方、教育にお金をかける意欲などの面で違いがみられる。

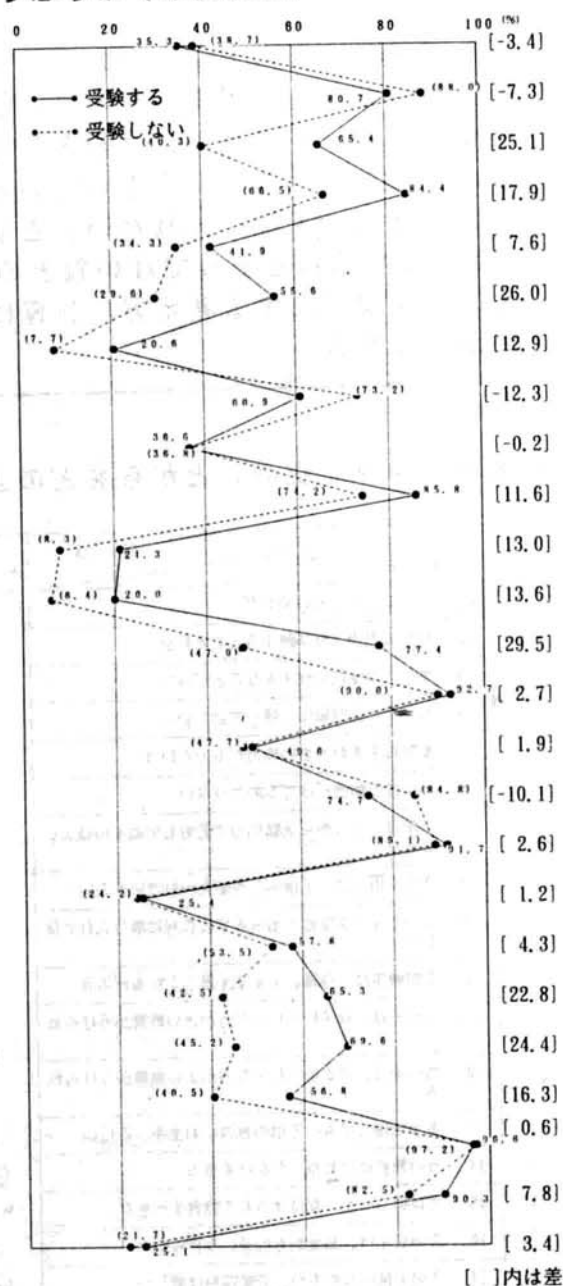
<表3-4> 次のことがらをどのように思うか

項目	尺度 (%)			
	とても そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
1. 今の子どもたちは幸せだ	12.8	24.1	47.4	15.7
2. 日本は実力より学歴を重んじる社会	37.9	46.9	13.6	1.6
3. 学区の中学校には不安なことが多い	17.1	32.8	42.7	7.4
4. わが子に受験戦争で勝って欲しい	24.9	47.9	23.1	4.1
5. 受験は生まれつきの能力がものをいう	7.5	29.1	51.2	12.2
6. 小学校の勉強だけでものたりない	10.6	29.1	50.5	9.8
7. 小学校のうちから受験勉強で苦労しておくのはよいことだ	2.7	10.1	54.1	33.1
8. 今の子供には、子供らしさが失われていると思う	24.5	43.1	27.5	4.9
9. コンピュータなどをもっと学校教育に取り入れてほしい	7.6	30.0	51.8	10.6
10. 受験戦争は、今後、ますます厳しくなるだろう	29.3	49.2	20.0	1.5
11. 女の子は、女子校へ行った方がよい教育がうけられる	3.4	10.1	56.4	30.1
12. 男の子は、男子校へ行った方がよい教育がうけられる	2.9	9.1	57.4	30.6
13. 多少無理しても、子供の教育にお金をかけたい	11.3	47.9	34.3	6.5
14. 今の教育にはお金がかかりすぎる	47.7	43.2	8.5	0.6
15. 男は男らしく、女は女らしく教育すべきだ	16.0	33.1	38.0	12.9
16. 今の日本は、お金がものをいう世の中だ	36.1	45.4	16.0	2.5
17. 今の子供たちの方が、受験戦争は厳しい	60.4	29.4	8.7	1.5
18. 自分は高校(大学)の受験でとても苦労した	4.0	20.7	57.2	18.1
19. 子供には受験の苦しみを味あわせたくない	10.1	46.5	38.2	5.2
20. 子供は一流大学に入りたい	14.5	36.9	40.1	8.5
21. 親がしっかりしていないと、子供は受験戦争に勝てない	14.1	40.8	36.5	8.6
22. 周囲が受験に力を入れている以上、わが家も入れざるをえない	7.5	39.4	42.2	10.9
23. いい友だちは人生を豊かにする	72.2	24.9	2.4	0.5
24. 子供は一流でなくとも少しでもよい高校や大学に入りたい	30.4	55.4	12.3	1.9
25. 女性はやはり家庭にいるべきだ	6.5	17.0	50.0	26.5

(○印は最大値)

<図3-9> 次のことがらをどう思うか(母親調査)

1. 今の子供は、自分の子供時代よりも幸せだ
2. 今の日本は実力より学歴を重んじる社会だ
3. 今の学区の公立中学校は不安なことが多い
4. 我が子には受験戦争を勝ち抜いてほしい
5. 受験戦争では生まれつきの能力がものをいう
6. 小学校の勉強だけでは物足りない
7. 小学校から受験で苦勞するのは良いことだ
8. 今の子供には子供らしさが失われていると思う
9. コンピュータを学校教育に
10. 受験戦争は今後ますます厳しくなるだろう
11. 女の子は女学校へ行ったほうがよい
12. 男の子は男子校へ行ったほうがよい
13. 無理をしても子供の教育にはお金をかけたい
14. 今の教育にはお金がかかりすぎる
15. 男は男らしく、女は女らしく教育をすべきだ
16. 今の日本はお金かものをいう世の中だ
17. 今の子供の方が自分の頃より受験戦争が厳しい
18. 自分は高校(大学)の受験でとても苦勞した
19. 子供には受験の苦しみを味あわせたくない
20. 子供は一流大学に入れたい
21. 親がしっかりしていないと受験戦争に勝てない
22. 周囲が受験に力を入れているから
23. いい友達は人生を豊かにする
24. 一流でなくても少しでも良い学校に入れたい
25. 女性はやはり家庭にいるべきだ



※ このグラフで注目すべきところは特に受験させる母親とさせない母親のポイントの差が大きい(20ポイント以上)項目である。「無理をしても子供の教育にお金をかけたい」「小学校の勉強だけでは物足りない」「今の学区の公立中学は不安なことが多い」「親がしっかりしていないと受験戦争に勝てない」「子供は一流大学に」などに注目したい。受験をさせる母親には学歴志向の強さとともに、小・中学校の教育に対するある種の不満や不安をうかがうことができる。